

会 議 録 ( 要 旨 )

会 議 名	第2回武蔵村山市男女共同参画計画市民懇談会
開 催 日 時	平成25年11月12日(火) 午後6時30分 ~ 8時35分
開 催 場 所	中部地区会館403集会室
出 席 者 及 び 欠 席 者	出席者：(委員) 澤田泉、田中勝子、藤原アヤ子、朝倉高志、猪股昭、 栗原誠、水上玲子、森林育代、青木裕子、渡辺真紀子 (事務局) 協働推進課長、協働推進課主査、協働推進課主事
議 題	1 報告事項 (1) 第1回武蔵村山市男女共同参画計画市民懇談会の会議結果について 2 議題 (1) 計画の基本理念について (2) 目標1(男女平等の意識づくり)について (3) その他
結 論 (決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。)	第2回武蔵村山市男女共同参画計画市民懇談会 2 議題 (1) 計画の基本理念について 次回以降も引き続き検討する。 (2) 目標1(男女平等の意識づくり)について 事務局案を基に、次回提言書の文案形式で確認する。 (3) その他 今後の日程について 第4回会議平成26年1月21日(火) 午後6時30分から開催する。
審 議 経 過 (主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。)  (発信者) ◎印：座 長 ○印：委 員 ●印：事務局	1 報告事項 (1) 第1回武蔵村山市男女共同参画計画市民懇談会の会議結果について ● 前回の会議録について、特に修正等の連絡はなかったため、この会議録をもって承認していただきたい。 —異議なし— 2 議題 (1) 計画の基本理念について ● 事務局から「計画の基本理念」についての検討方法について説明。 【意見交換】 ○ 各目標の検討に入る前に、目標1～4のうちの優先順位について考える必要があるのではないかと。資料4を見ると、計画では多くの取組が位置づけられているが、その全てに効果を出すのは難しいと思う。

○ どの目標も大事であり、優先順位をつける必要はない。ただし、目標の中（主要課題など）で優先順位をつける余地はあるだろう。

◎ 優先順位はつけないこととする。

○ 基本理念について、事務局の提案ではいずれも「男女」の文言が含まれているが、これからの計画は男女だけではなく、多様な人が対象という一つの方向性を示すということから、敢えて「男女」を用いなくてもよいのではないか。事務局案3については、「誰もがイキイキと暮らせる社会をつくりまします」でよいのではないか。

○ 国や東京都ではどうしているか。「男女」を削除して男女共同参画の計画であるとすぐ分かるだろうか。時代に即して削除することはできるが、国の施策等を加味して考える必要がある。

● 東京都の計画の基本理念では、「男女」と明記している。次期計画の基本理念については庁内でまだ議論していない。市には、子どもや障害者、高齢者などを対象とした他計画があるので、整合性も考える必要がある。ただし、（従来の「男女」に限定せず）広い視点で物事を捉えていくことは必要だと考える。

○ 男女共同参画の計画なのだから、「男女」をつけていてもよい。

○ 私は言葉の上で「男女」がついていても、相手を個人としてとらえ、その人の長所を見ている。ここではあくまで事務的に「男女」と言っているだけであり、「男女」の有無に固執するべきではないと思う。文書を作る上では「男女」があってもよい。

◎ 計画の性格を市民に啓発する上では、「男女」が入っていたほうが分かりやすいと思う。現時点で「男女」を外すのは時期尚早と考える。

○ 現行計画の基本理念には「男女」の言葉がついていない。

○ 基本理念の内容が男女共同参画の概念に沿ったものであればよいと思う。「男女」の言葉の有無自体を問う意義はない。

◎ 本日は結論を出さず、次回もう一度考える。「男女」の有無は意見が分かれたが、人権や人の尊厳の問題に到達するという部分については、各委員とも異論が無いと思う。計画の継続性もあるので、文言は大幅には変えないこととする。

## (2) 目標1（男女平等の意識づくり）について

● 事務局から資料を説明。

### 【意見交換】

○ 資料4を見ると、D評価の事業は基本的なものばかりである。早急に対応していただきたい。市民に対する意識啓発は大事だが、行政サービスに携わる市職員が（男女共同参画に対する）統一した見解を持っている

ないのでは、市民としては不安である。

- 職員課の事業について、目標に掲げた「年齢制限の撤廃」は困難だが、「年齢制限の緩和」としては前進している。
- 資料4について、A評価であっても、その事業が男女共同参画にどう結びつくのか疑問を感じるものもある。全体的な課題として、計画期間中に事業を中止するという判断ができないということがあると思う。

資料2の意識調査結果を見ると、図55～57で「わからない」「特にない」や無回答が過半数を占めていることが課題。男女共同参画センターの役割や具体的取組をどのように周知すればよいのだろうかと感じた。
- 計画全体について、基本理念にも関係するが、本来、一番上にあるものは第1次計画から第3次計画にかけて同じでなければならないのではないか。そうでなければ、計画改定の度に方向性が動くことになってしまう。

現行計画の反省を踏まえないとよい計画ができない。次の5年間もそのままということでは、多分ずっと変わらないと思う。懇談会6回（12時間）程度では、計画は策定できないと思う。

将来、「男女」を意識しないことが普通、という社会になっているということが大事だと思う。
- ◎ 計画の継続性について、表現は社会的な背景を踏まえて変わることもあるが、本質は継続しているのだと思う。

また、この懇談会で計画策定作業全てができるわけではないので、事務局が原案を用意している。市民意識や施策の推進状況を踏まえながら、意見を原案に反映させるというやり方で進める。
- 毎週、懇談会を開催し、一年以上継続する方法もあるが、各委員の負担も考える必要がある。懇談会のみで計画策定を行うことは無理があるので市が計画策定を行う際に、懇談会の意見を反映したい。懇談会終了後、計画策定までの間に「パブリックコメント（意見公募）の機会」を設けたいと考えている。
- 懇談会でそれぞれの施策の方向性を示すのは難しいと思う。提案だが、資料3の図55で「わからない」等が過半数であるので、市民に男女共同参画を分かりやすく示すための方法を挙げてはどうか。市民の立場から「こうであればよい」という提言を出すことならできると思う。
- センターの認知度が低いが、立地条件に影響されていると思う。市西部の住民では全く知らないと思う。
- 居住地に関わらず認知度は低いと思う。村山団地入居者でも認知度が低い。「ゆーあい」の看板が見えにくい。結局、利用している人にしか分からないという状態。

	<p>○ 市民意識調査結果を見ると、「ゆーあい」自体を知らない人が6割を超えている。しかし、「ゆーあい」に期待している人は2割を超えており、「ニーズはあるが、知られていない」ということが問題だと思う。もっと重点的に周知することが重要であり、ここに来れば何でも解決できるというような機能を持てばよいのではないか。</p> <p>◎ 市民意識調査の分析はよくできていると思う。回答者の職業によって意識が異なっており、特に公務員で顕著に現れている。</p> <p>目標1部分の表現に関しては、項目ごとに加えるもの、削除するものを次回整理し、決定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 資料に本日の議論を反映させて、具体的な文案を作成する。</li> </ul> <p>(4) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 第4回懇談会の日程を決めたい。 <ul style="list-style-type: none"> <li>－調整－</li> </ul> </li> <li>● 第4回会議は平成26年1月21日(火)午後6時30分から開催する。</li> </ul>
--	--

会議の公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開 ※一部公開又は非公開とした理由  ( )	傍聴者： _____ 0 人
-------------	---	----------------

会議録の開示・非開示の別	<input checked="" type="checkbox"/> 開示 <input type="checkbox"/> 一部開示（根拠法令等： _____ ) <input type="checkbox"/> 非開示（根拠法令等： _____ )
--------------	---

庶務担当課	生活環境部 協働推進課 (内線： 243 )
-------	------------------------

(日本工業規格A列4番)